



お客様に信頼と利便性、
高い満足度を提供する魅力のある、
活力あふれる銀行を目指して

Contents

ごあいさつ／第17次中期経営計画	3
業績推移(単体情報)	5
地域活性化へ向けて	9
将来を見据えて	15
地域社会のために	19
株主の皆さまへ	21
店舗・本部地図	22



当行のプロフィール

名 称／株式会社京葉銀行
英文名称／The Keiyo Bank, Ltd.
設 立／1943年3月31日
資 本 金／497億円
本 店／千葉市中央区富士見1丁目11番11号
千葉みなと本部／千葉市中央区千葉港5番45号
拠 点 数／283ヵ所
 本支店：119 出張所：2
 店舗外ATMコーナー：162

従 業 員／2,148名
総 資 産／4兆7,530億円
預 金／4兆3,876億円
貸 出 金／3兆3,517億円
自己資本比率／単体 11.21%
(国内基準) 連結 11.24%
格 付／A- (S&Pグローバル・レーティング)
A+ (株式会社日本格付研究所)
(2017年9月30日現在)



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、「2017京葉銀行中間レポート」を作成いたしましたので、ご案内申し上げます。ご高覧のうえ当行に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

日本経済は、輸出・生産面で持ち直しの動きがみられるほか、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費も底堅く推移しています。また、当行の経営基盤である千葉県経済も、雇用情勢は堅調に推移しており、企業倒産件数についても低い水準で抑えられているなど、緩やかな回復基調が続きました。

一方、低金利環境や少子高齢化、またテクノロジーの進化など、金融機関を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような環境下で、当行は第17次中期経営計画「α ACTION PLAN 2018」の最終年度を迎えています。副題として掲げた『変革と実行』のもと、3つの経営課題に取り組むことで、社会の変化に着実に対応し、当行の持続的な成長の実現に向けて、グループ一丸となって努力を続けてまいります。

地域活性化への積極的な貢献

当行は、創業以来、「地域への貢献」、「堅実な経営」という理念のもと、「お客さま目線」での業務運営を第一に、今まで地域とともに歩んでまいりました。

これからも、地域のお客さまに寄り添い、地元千葉県とともにさらなる成長、発展を遂げていくために、法人のお客さまには、引き続き経営者との対話を通じて信頼を構築し、課題を共有することで、お客さまの企業価値向上へつながるよう、最適なソリューションを提供してまいります。また、個人のお客さまには、フィデューシャリー・デューティー(顧客本位の業務運営)の精神に則り、今年6月に策定した「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を、行内でも周知徹底することで、多様化するニーズに応え、お客さまの安定的な資産形成の実現に向けて、より質の高いコンサルティングを提供してまいります。

将来を見据えた経営基盤の構築

当行は、取り巻く環境の変化に、しっかりと対応し、将来を見据えて経営基盤を構築してまいります。

少子高齢化が進むなか、資産形成や相続、事業承継等のさまざまなニーズに応じて、お客さまにとって真に利益となるサービスや商品の提供に努めてまいります。

また、IT化の急速な進展にも的確に対応するため、お客さまが、いつでも、どこでも、便利で安心、快適なサービスをご利用できる「オムニチャネル化」に向け、対面チャネルでは、ITを活用した「次世代型店舗」の取り組みにより、来店時の手続き負担を軽減し、お客さまとの接点を拡大することで、より質の高いコンサルティングの提供に努めてまいります。非対面チャネルでは、アプリの活用や、ネット証券等の他業種との提携等、お客さまの利便性と満足度を高めるため、より一層の充実を図ってまいります。

さらに、今後、生産年齢人口の減少が見込まれるなか、働きやすく、かつ職員が自ら学び、成長していくよう、「人財」の育成や「働き方改革」を進めることで、生産性向上に取り組んでまいります。

経営管理態勢の高度化

当行がお客さまの信頼に応え続けていくためにも、法令および企業倫理の遵守を徹底するべく、コンプライアンスに対する意識啓発に努め、経営を取り巻く各種のリスクに適切に対処してまいります。また、CSR(企業の社会的責任)を意識した経営の実践により、持続的な成長とともに、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

こうした取り組みを通じて、全てのステークホルダーの皆さまのご期待にお応えできるよう、京葉銀行グループの役職員一同全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

第17次中期経営計画 期 間 3年間(2015年度～2017年度)

α ACTION PLAN 2018 ~持続的成長へ向けた「変革と実行」~

目指す
銀行像

お客さまに信頼と利便性、
高い満足度を提供する魅力のある、活力あふれる銀行

3つの
経営課題

- 1 地域活性化への積極的な貢献
- 2 将来を見据えた経営基盤の構築
- 3 経営管理態勢の高度化

計数目標

当期純利益	自己資本比率	OHR	預金残高	貸出金残高
140億円	12%程度	65%程度	4.4兆円程度	3.4兆円程度

2018年3月期

※当期純利益、OHRについては2016年5月11日に目標の見直しを行っています。